

ホワイトスペース推進会議 (第4回)

空港連携エリアワンセグ・サービス

平成23年7月13日

日本空港ビルデング株式会社

茂木 良一

羽田エリアワンセグ・サービス・ベリカードデザイン



羽田エリアワンセグサービス ✈️
Haneda airport Ubiquitous Broadcasting



1. 実証実験目的

ワンセグ視聴可能な携帯電話を対象にした空港利用者向けサービスの実証実験。
～ 空港連携ワンセグ・サービス ～

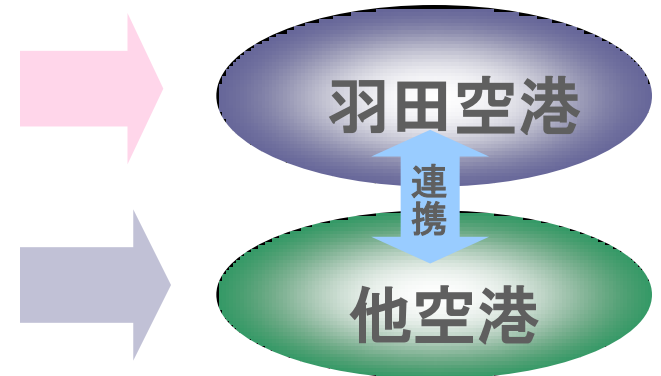
(1) 空港ご案内サービス

- ・羽田空港放送：空港サービス施設案内、ショップ&レストラン案内、お土産情報、乗り継ぎ案内・交通アクセス情報、旅先情報（観光情報）、など
- ・フライト情報、関連対応サービス情報
- ・その他 ご案内



(2) 店舗、イベントへの送客誘導サービス（サービスビジネスストライアル）

- ・物販/飲食への送客誘導
- ・イベントへの送客誘導
- ・他空港と連携を検討
- ※ 既存Webサービス等との連携も検討



2. 実証実験の成果 (3月～6月)

① 適正サービスエリアの確保

- (1) 送信アンテナの最適ポイント探査測定・決定
 - (2) 最適送信ポイントからの電波発射運用と実験
- * 添付資料 御参照

② 専用ホームページの開設 < <http://www.airport-broadcasting.jp> >

- (1) NEWS
- (2) 羽田エリアワンセグって？
- (3) 羽田エリアワンセグのこれまでの取り組み
- (2) 総務省HPのバナー・リンク設定
 - ・ホワイトスペース推進会議 新たな電波の活用ビジョンに関する検討チーム
 - ・「ユビキタス特区」事業の推進 他

③ 映像コンテンツの実験放送

- (1) 羽田エリアワンセグって？
- (2) レストラン・物販店舗コンテンツ制作・放送
- (3) 九州地区観光情報放送
- (4) 福島県いわき市復興動画放送
 - ・がんばっぺ いわき（いわきの農産物は安全！）
 - ・フラガール全国きずなキャラバン

④ アンケート情報取得と管理・活用

羽田国際空港航空旅客数 2010年度 6,363万人(国内線5,881万人国際線482万人) (2009 6,209万人)

- (1) 1回目アンケート(第2ターミナル 出発ロビー・ゲートエリア) アンケート回答者数 83名
- (2) 2回目アンケート(第2ターミナル 出発ロビー・ゲートエリア) アンケート回答者数 98名

* 添付資料 御参照

3. 将来展望

①地域振興：地方空港・地域コンテンツ連携

- (1) 地域コンテンツを羽田空港ワンセグ・サービスで配信、地方への送客誘導支援
- (2) 地域観光イベント・ライブイベント等との連携サービス配信

②地域振興：駅ターミナル、鉄道等の公共交通連携による集客支援

- (1) 駅ターミナル：情報連携ワンセグ・サービス配信
- (2) 集客イベントとの連携サービス配信

③災害時避難場所へ羽田エリアワンセグサービスによる支援

電気・通信インフラ遮断時の情報伝達手段

(参考：羽田空港ターミナルは2日間電力供給する非常用発電装置保有)

④空港連携ワンセグ・サービスの展開

他空港との空港連携ワンセグ・サービス展開により、新たな送客誘導を構築することで各連携空港共々、利便性、収益等向上を期待

4. 今後の課題

～ 空港連携エリアワンセグ・サービス ～

(1) ワンセグの認知度の低さと、チャンネル設定方法の難しさ(事業運用面)

- ・アンケートで空港利用者様にワンセグの説明から、始めなければならない
- ・空港実験チャンネル33chを空港利用者へ告知する困難性
- ・携帯電話・スマートフォンは端末設定操作方法が各社(機種)不統一

国による地デジ化と同様な、周知の御支援を頂かなければ、新事業の創出は困難

(2) 来日中国、アジア人向け空港内利用者放送の課題(事業運用面)

- ・外国語によるアナウンサー等によるライブ放送は可能だが、多言語等混在して放送することの運用上の困難性

(マルチセグメント方式により多言語化することは可能だが、現時点では両方式に対応する端末の導入には費用がかかる。早期のビジネス展開にはワンセグ方式が適している。H21年度マルチセグメント方式実験を専用端末30台で実施)

- ・端末のアジア言語での対応を実施すること
- ・彼等が多く使用する「iPhone」にエリアワンセグをサービスすること
- ・アジア人向け空港内利用者限定放送(専用ch)を実施すること

ホワイトスペース特区基本理念「地域活性化や新産業創出など国民の利便性向上の実現」を踏まえ、特区決定要件「制度化への反映やビジネス展開の促進のため実証実験」を継続して、国の御支援を頂きながら課題解決に努力したい

5. 特区「羽田地区」実施体制

羽田ホワイトスペース特区先行モデル「羽田空港地区」実施体制

～羽田ユビキタス放送ICT事業プロジェクト～

全体統括：日本空港ビルデング(株)

①事業主体

日本空港ビルデング(株)：全体統括の立場から、プロジェクトの進行管理とサービス実証を行う

②協力会社

京浜急行電鉄(株)：サービス実証の主に鉄道に関すること

マスプロ電工(株)：主に技術開発の立場で、システム設計・構築・工事、ソフト開発、技術開発を行う

(株)INFASウェブ：映像コンテンツ企画・制作、番組編成、放送運営

電 株)：放送電波送出技術開発

(株)NTTPC：通信サービスに関すること

③協賛会社

日本空港テクノ(株)、(株)ビッグウイング、東京エアポートレストラン(株)

(株)羽田エアポートエンタープライズ 他

羽田エリアワンセグ・サービス添付資料

羽田エリアワンセグ・サービス・ステッカー

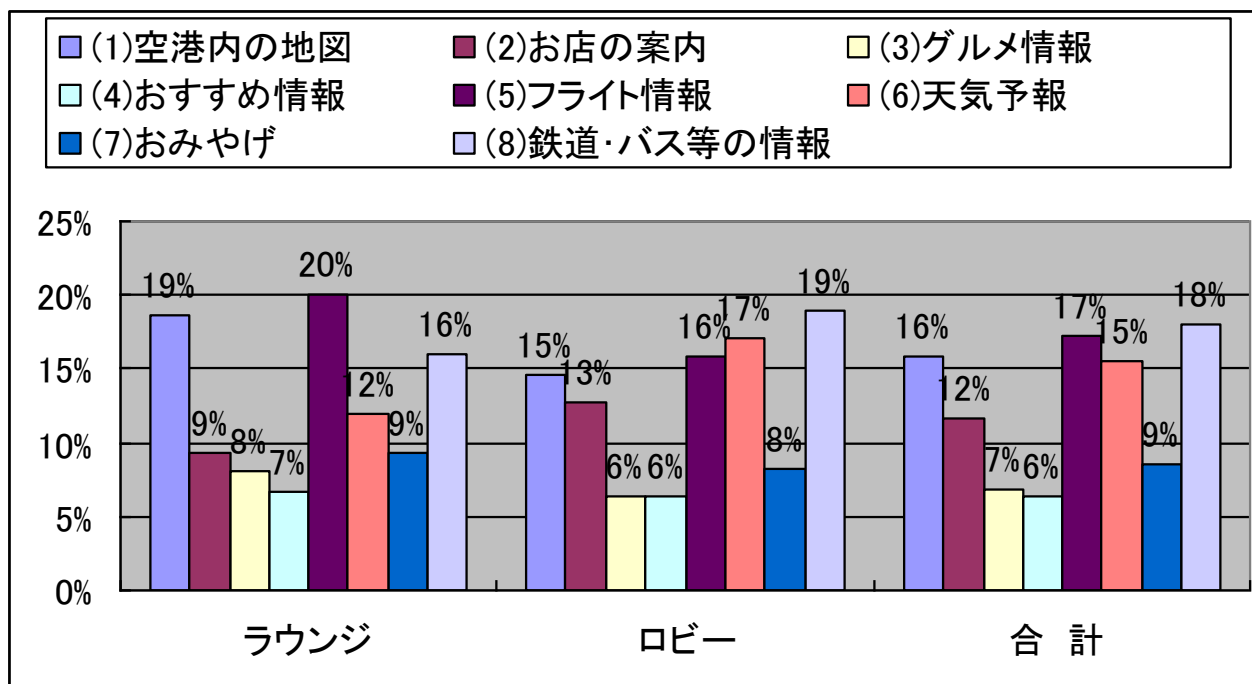


1. エリアワンセグ・サービスで視聴する利用者の映像コンテンツ志向調査及び最適反映化の検討

(1) アンケート調査(抜粋)

■ 番組の「データ放送」(画面下の文字の部分)についてお聞きします ■

Q: 今後、データ放送で利用したいと思うメニューはどれですか？

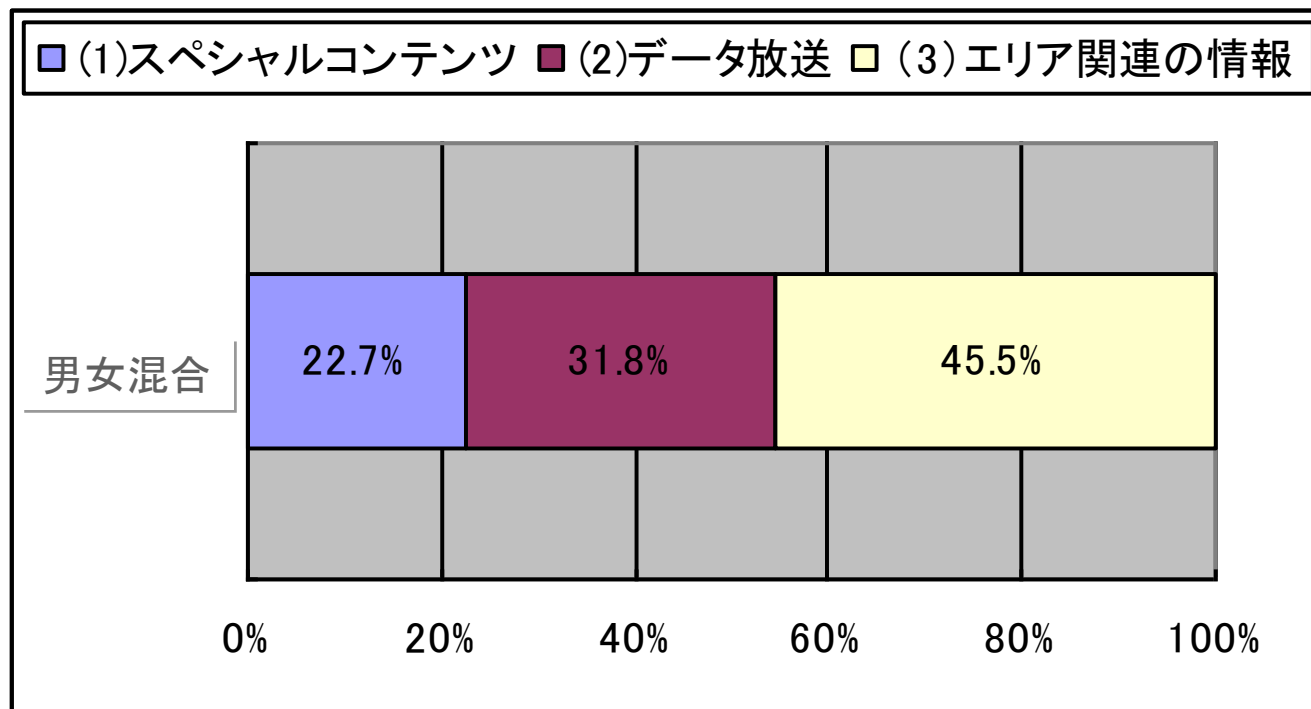


A: 全体としては、「鉄道・バス等の情報」が1位となり、次いで、「フライト情報」、「空港内の地図」、「天気予報」の順となっている。データ放送に関しては、実用性およびリアルタイム性が高い情報サービスが求められている

(2) アンケート調査(抜粋)

■ワンセグ放送に求めるものについてお聞きします ■

Q: エリアワンセグの便利と感じるところは？



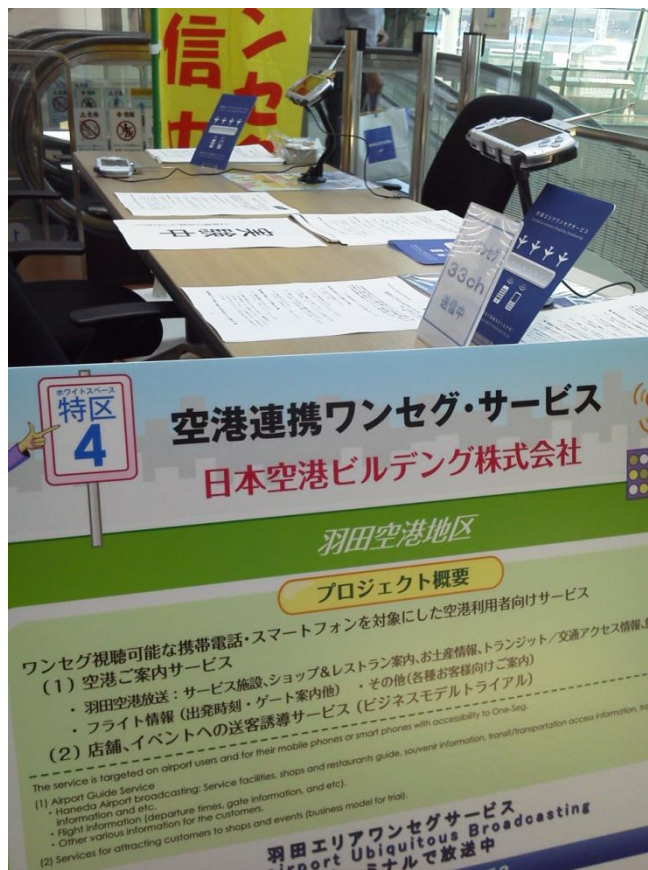
A: 「エリア関連の情報」の回答が最も高く、やはりそのエリアに根ざした情報が一番求められていると考えられる

エリア内の**防災情報、緊急放送、テロップ放送**は常設すべきコンテンツであるといえる

(3) アンケート調査(風景)

2010年6月29日(水)

羽田空港第2ターミナル2F ロビー中央付近



2. 電波伝搬実証実験予定

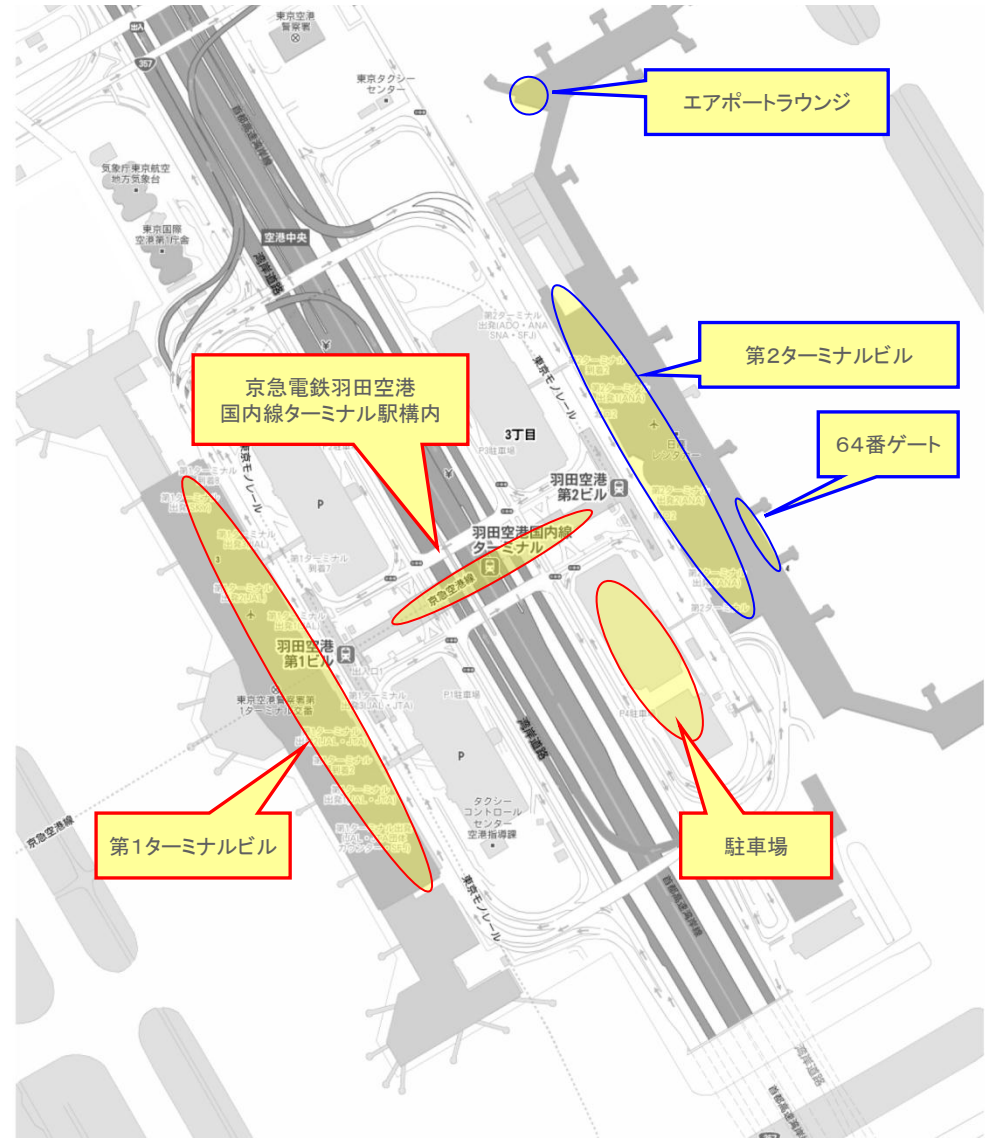
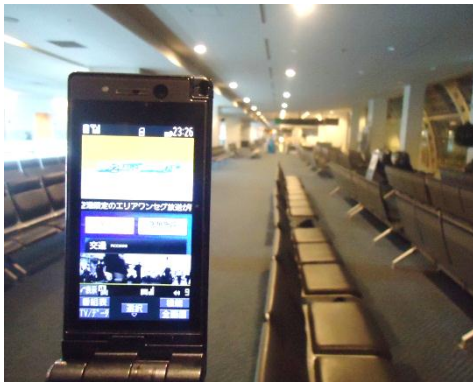
エリアワンセグ・サービスエリア内での最適エリア等設定のため実証確認
エリアワンセグ・サービス運用支援のため、種々、電波伝搬実証実験を適
時実行

3. 送信装置動作確認実験予定

複数送信局映像配信のコントロールや連携の動作確認実験を適時実行
リアルタイム映像配信やデータ放送配信の動作実験を適時実行

主な実証実験場所や実験の様子

- 凡例
- 最適な送信エリア設定・実証
 - 運用サービス検証に向けた実験場所





Haneda airport Ubiquitous Broadcasting